

Case Study

支部ケース・スタディ

東海支部

「安全・安心123チャンネル」で視聴者の皆さまに地域密着の安全・安心情報をライブ配信

中部ケーブルネットワーク(株)

管理本部 地域事業部長

小林 隆



新たなコミュニティチャンネルで「地域の安全・安心」に貢献

中部ケーブルネットワーク(CCNet)は、春日井小牧コミュニケーションテレビ、東名ケーブルテレビ、シーテックCCNet事業部が事業統合し、現在は、愛知・岐阜・三重の3県下、20市町でケーブルテレビ・通信事業を展開しております。

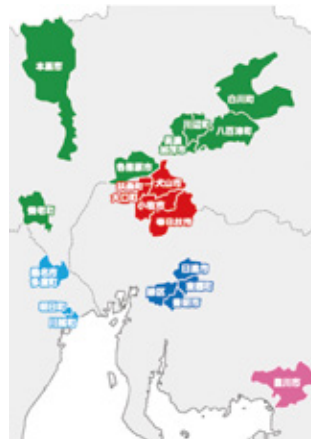
私たちは「地域に密着したテレビ局」として、地域情報を発信するコミュニティチャンネルの番組づくりからオンエアまでを手掛けています。

近年、全国的に自然災害が増加しておりますが、一般的なテレビの番組情報は、特定の地域の道路や河川等に特化していません。特に高齢者の方々の情報源がテレビであることを踏まえ、当社は地元のケーブルテレビ会社として、地域の安全・安心に貢献できるように、エリア限定の情報番組「安全・安心123チャンネル」(以下「123ch」)を12chのサブチャンネルとして開設しサービス提供しております。

これまで、2019年10月に愛知県春日井市から放送を開始したのを皮切りに、2020年7月に愛知県小牧市と扶桑町、9月には岐阜県各務原市でもサービスを開始いたしました。



マスコットキャラクター「Cちゃん」



サービスエリア

「安全・安心123チャンネル」の提供コンテンツ

例えば小牧市の場合では、道路に20台、河川に5台、合計25台のライブカメラを配備し、チャンネルのトップ画面で、それぞれの様子を365日24時間リアルタイムでお届けしています(写真[1]参照)。

普段の通勤・通学の道路状況や台風・大雨時における河川の水位状況を映像で確認できるため、事件や災害の危険回避等にとっても有効です。

トップ画面のライブカメラ4分割映像は約10秒ごとに自動的に切り替わりますが、テレビにCCNetのインターネットを繋ぐことで、視聴したいカメラ映像を任意に選択することも可能です(写真[2]参照)。

2019年10月12日に台風19号が東海地方へ最接近しましたが、123chの1日あたりの平均接触率は平常時の約5倍でした。このことから、地域のお客さまの123chの関心の高さが伺えます。

カメラ映像に加えて、災害情報共有システム「Lアラート」や事件・不審者情報を配信する「パトネットあいち」、小牧市のツイッター等とも連携しており、それぞれお住まいの地域の気象情報、不審者情報、鉄道・道路情報等をテレビのリモコンによる簡単な操作で確認をすることができます。防災・



写真[1]: 123chトップ画面



写真[2]: カメラ選択画面

防犯に関する緊急度が高い情報が発信された場合には、赤いL字で表示することにより注意喚起を促すようにしています(写真[3]参照)。

さらには、各自治体が提供する市民サービスの特徴にあわせた情報を付加しており、小牧市のケースでは、ツイッター連携に加えて、市営巡回バスの運行情報を追加情報として提供しています(写真[4]参照)。

今後も、各市町のニーズにあわせた情報をカスタマイズし、便利で重宝される情報を配信できるよう取り組んでいきます。



写真[3]: 緊急情報赤L字画面



写真[4]: こまき巡回バス運行情報画面

事業展開にあたって工夫・苦労した点

○行政協力・協定締結

ライブカメラの設置にあたっては、「どこが渋滞するのか」「どこの道路が冠水するのか、どこの河川が増水するのか」といった地元の方々の関心の高い地点情報を当社では把握していません。

また、ライブカメラは自営柱を建てて設置しますが、より良い映像を撮影するには道路や河川にできるだけ近い場所に設置する必要があり、その設置場所は行政所有の道路等が中心になります。

そのため、123chを各市町で展開していくことについて、首長はじめ行政関係者の協力の合意を得て、さらに「行政情報、地域情報等の発信に関する連携協定」を締結して、123chを展開しています(写真[5][6]参照)。

マスコミの関心も高く、協定締結に際しては地元新聞社の取材を受けて記事になっています。



写真[5]: 各務原市での説明の様子



写真[6]: 今後サービスを開始する本巣市での協定式の様子

○わかりやすい放送システムを構築

編成・技術本部 編成制作部では、各局のセンター設備構築、局間伝送設備、データ放送画面の制作等を担当しました。

放送技術以外にも通信、サーバー(AWS EC2)、ストリーミング等の総合的な技術力が求められること、また、放送システムとして、ライブカメラの画面選択機能、緊急時のLアラート画面、FMラジオ、巡回バスの運行情報の表示等複雑な連携を有しながらも、お客さまには見た目が分かりやすく、シンプルに操作いただくための画面構成等に苦労しました(図1参照)。

当社スタッフはじめ各ベンダー様の「汗と涙」によって構築した当チャンネルを、大切に保守管理して、内外にPRしていきたいと考えています。

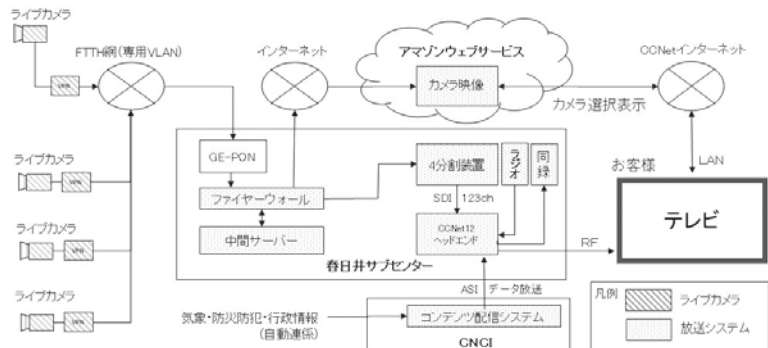


図1: システム構成図

○ライブカメラの構成

ライブカメラは、自社カメラポール(鋼管柱6~10m)、ネットワークカメラ、機器収容BOXにより構成されています。ライブ映像は自社L2ネットワークで放送システムまで伝送しています。

なお、主に屋外の設置となるため、高温時の環境に対応する機器を選定し、ファン等による熱対策も講じました。

また、機器収容BOXは、機器の工場での組付けならびに試験を行うことで現地作業の効率化も図りました。さらに、雨の際にもライブ映像ができるだけ鮮明に確認できるように、特注のフードカバーをカメラに取り付け雨粒よけ対策を実施しています(写真[7]参照)。



写真[7]: ライブカメラ

○工夫を凝らした営業展開

123chをきっかけとした営業活動にも力を入れています。行政との折衝を進める中で新たに開拓した訪問先チャンネルを通じたPR活動や、ライブカメラを設置した河川の周辺を重点的に訪問営業する等の工夫を凝らした営業活動を実施しており、災害発生時の避難場所として設定している公民館等からもCCNetのテレビサービスへの加入について多くの引き合いをいただいております。

また、訪問営業をする際の訴求ツールとして、「暮らしの中で123chをどのように活用していただけるか」を紹介するPRビデオを制作し、タブレット上で閲覧可能にする等、サービスの「見える化」にも取り組んでいます。

地域からの反響

サービスを開始した地域の行政やお客さまから、次のような好評価をいただいております。地域情報インフラ事業者として、提供するサービスの有効性に手応えを感じています。

- ・(要望した)行政が発信する行方不明者情報を防犯情報に取り込んで配信いただいたことは、早期発見につながるため大変ありがたい。(警察署)
- ・災害対策本部設置時に特にアンダーパス、河川のリアルタイムの状況を確認でき、職員を現場出向させるかの判断に役に立った。(複数の行政)
- ・大雨の翌日に市民より「川にごみが溜まっている」との情報があり、その場所にライブカメラが設置してあったことから、現場出向せずに状況を確認することができ、ごみ回収の手配をすることができた。(行政)
- ・署内に複数台のTVを設置し、大雨の際にアンダーパスを中心に監視しており、署員を現場出向させるかの判断に役に立っている。(警察署)

今後の展望

サービスを開始していない地域の行政に123chを紹介したところ、多くのご要望が寄せられていることから、なるべく早い段階でCCNet全サービスエリアに広げたいと考えています。

また、当社のお客さまに対するサービスの充実として、在宅時でなくても視聴できるよう、アプリを通じた123chの情報提供を検討しています。

今後も地域のニーズを汲み取り、地域に親しまれ役に立つサービスの充実に努めていきたいと考えています。